
日本村落研究学会 研究通信

(No. 198 2000. 5. 22)

(事務局) 米沢和彦 (熊本県立大学) 徳野貞雄・古賀倫嗣 (熊本大学)
〒862-8502 熊本市月出 3-1-100 熊本県立大学総合管理学部社会学研究室
Tel (096) 383-2929 (内 682) Fax (096) 383-2966 E-mail : yonezawa@pu-kumamoto.ac.jp
URL <http://www.pu-kumamoto.ac.jp/yonezawa/>
郵便振替口座 01730-9-90893 日本村落研究学会

- | | |
|------------------|-------------------|
| (1) 第 48 回大会について | (6) IRSA の関係のお知らせ |
| (2) 理事会報告 | (7) 地区研究会報告 |
| (3) 学術会議について | (8) 事務局からのお知らせ |
| (4) 追悼文 | (9) 会員動向 |
| (5) 各種委員会からのお願い | (10) お詫びと訂正 |
-

1. 【第 48 回(2000 年度)大会について】

日本村落研究学会 第 48 回 (2000 年度) 大会について

- (1) 大会日程 : 11 月 7 日 (火) 午後 エクスカーション
8 日 (水) 大会第 1 日
9 日 (木) 大会第 2 日
10 日 (金) エクスカーション
- (2) 大会会場 : 愛媛県東宇和郡明浜町大字高山甲 3657 「明浜町中央公民館」
電話 0894-64-1111 (代 : 明浜町役場) Fax 0894-64-1550
- (3) 宿泊所 : 「あけはまオートキャンプ場 キヤパ」
愛媛県東宇和郡明浜町大字高山甲 461-1
電話+Fax : 0894-69-8022
町営「民宿ふるさと」
愛媛県東宇和郡明浜町大字高山甲 461
電話+Fax : 0894-64-161

(4) 交通ルート：

JR利用の場合：岡山駅から瀬戸大橋線、予讃線、内子線（多度津、松山経由）
卯之町下車（特急利用で約3時間）

※岡山ー松山間的高速バスとJR利用も可能です

飛行機利用の場合：松山空港から空港バスで松山駅下車、JR内子線乗り換え、
卯之町下車（空港ー松山 約25分、松山ー卯之町 特急1時間10分）

フェリー利用の場合：神戸、大阪、広島、大分、別府から松山観光港下船、
連絡バス+伊予鉄道の大手町駅下車、JR内子線乗り換え、卯之町下車

※その他、車で九州からお越しの場合は、臼杵ー八幡浜が便利です

卯之町からは、時間を決めて、マイクロバスを出す予定です。

なお、便数が少なく不便ですが、宇和島駅から明浜町まで、宇和島バスを利用することも可能です。これについては、別途、ご案内します。

(5) 参加費用：（予定です。大学院生、学生の割引を検討中です）

大会参加費		3,000円
エクスカージョン参加費	7日	1,000円
	10日	5,000円(昼食代含む)
宿泊費	1泊2食	8,000円
懇親会費		4,000円
昼食費	1食	500円

(6) エクスカージョン：（予定）

11月7日（火） 13:30 卯之町発（明浜町マイクロバス）

14:30 真珠養殖(赤潮と真珠養殖)

15:30 ちりめん漁家(ちりめん漁：狩浜)

16:30 JAみかん選果場

17:30 宿舎着

11月10日（金） 9:00 宿舎発

9:15 無茶茶園みかん園（無農薬早生みかんの最盛期：景観のみ）

10:15 愛媛県歴史文化博物館（宇和町：原寸大で復元した建物等）

13:00 内子町からり（昼食 産直と情報化、個人所得1千万円等）

15:30 JR松山駅

16:00 松山観光港（広島行きスーパージェット乗り場：毎時、
所要時間1時間15分）

(7) 大会事務局：中川聰七郎、中道仁美（愛媛大学農学部）

高橋基泰、中村則弘（愛媛大学法文学部）

連絡先：中道仁美

〒790-8566 松山市梅味3丁目5-7 愛媛大学農学部

電話+Fax 089-946-9837（直通）

089-946-9830（資源・環境政策事務室）

E-mail：hitomi@agr.ehime-u.ac.jp

ホームページ：<http://133.71.115.212/nakamichi/rural-sociology.htm>

(8) 今後の予定：大会参加者の申し込み：8月中旬-9月下旬

（中道 仁美）

2.【理事会報告】

第3回理事会 議事録

日時 平成12年4月22日（土）

場所 明治大学駿河台校舎研究棟第3会議室

出席者 安孫子 麟、高橋 明善、熊谷 苑子、北原 淳、藤井 勝、大内 雅利
吉沢 四郎、市田 知子、小内 純子、黒崎八洲次良、佐藤 直由
杉岡 直人、堤 マサエ、鳥越 皓之、中道 仁美、東、敏雄、細谷 昂
矢野 敬生、米沢 和彦、渡辺 正、池上 甲一（代理）（21名）
欠席者 青木 辰司、古賀 倫嗣、白樫 久、松村 和則（4名）

1、2000年度の学会大会について

今年度の大会担当の中道会員より日程等の報告があった。

（本号1～3ページ参照）

2、各種委員会よりの報告

(1)「年報」の編集について

藤井委員長より次のような報告があった。

- ①『年報』第36集の正式な表題は、副題をつけ、『日本農村の20世紀システム－生産力主義を超えて－』に決まった。またこの間に論文の自由投稿はなかったので、第36集は「共通テーマ」に関する依頼論文7本と、「研究動向」論文5

本で構成されることになった。

- ②「共通テーマ」関係の論文は5月のGW明けには出そう予定である。提出された論文については査読・修正作業を行い、その他の原稿とともに6月末には出版社へ入稿し、10月末の刊行をめざす。
- ③年報編集委員長を渡辺正会員に交代することを決め、理事会でも承認された。任期は2001年秋までである。現委員長の藤井会員が本年9月より半年間外国出張することになったためである。

(2) 「ジャーナル」編集について

大内委員長より次のような報告があった。

- ①村研ジャーナル12号は、2000年3月に発行。
- ②13号は、2000年9月発行の計画で作業を進めている。これまで、論文が多くて書評の掲載を見合わせていたが、13号は書評のページが増える見込み。
- ③ジャーナルの論文の抜き刷りは、現在はしていないが、希望があるので発行元と話し合う予定。

(3) 学会賞について

吉沢委員長より、まだ推薦がなされていないので、ぜひ推薦をお願いしたい旨の報告があった。

(4) 研究委員会

2000年度のテーマセッション「日本農業・農村の史的展開と転機に立つ農政」の準備の進捗状況については、前任の委員長の北原会員より報告があった。

熊谷委員長より、2001年度のテーマセッションと、2002年度の50回記念大会の構成案について、研究委員会において協議中であることが報告された。

地区研究会は、北海道地区は4月に開催したことが小内会員より報告された。

(5) 国際交流委員会

北原委員長より次のような報告があった。

- 1) 北原・河村・池上委員による数回の準備作業の結果について。

- ①2004年XI回IRSA大会の日本招致(京都・龍谷大学深草キャンパスにて7月末から8月初に開催予定)に関する事務的文書を、モルナー会長から指示

のあった形式に従い、北原・河村の責任で作成し、会長および会場選定担当のコパッチ理事に送付した。

- ②大会当日までの準備日程について、池上委員（河村実行委員長代理）より、第1段階（組織委員会準備会発足等）、第2段階（組織委員会発足等）、第3段階（サーキュラー送付、登録開始、宿泊予約等）、第4段階（大会当日、残務整理等）の4段階の予定作業スケジュールが報告され、当面の活動費をどうするか問題提起があった。
- ③組織委員会準備会委員の候補者について、関西地域の会員を中心に、河村、北原、池上、鳥越、満田、嘉田、秋津、藤井（勝）、細谷、黒柳、安孫子、高橋、磯辺の13名（役省略）、の提案があった。審議の結果、大筋を承認し
- 1 当初IRSAリオ大会以前に予定していた準備会の発足は、招致が確定した8月以降に延期する
 - 2 当面必要な活動費はさらに詰める、等を決定した。

- 2) 2000年7月30日－8月5日にブラジル・リオデジャネイロのグロリア・ホテルで開催される第10回IRSA大会について情報交換を行い、日本から11名の報告者が登録され、20名以上の参加者が予定されていること、日本招致の説明に日本学術会議（社会学研連）代表として研究委員長（北原）が行き、IRSA常任理事の鳥越・満田とともに、事務的説明を行うこと、等が確認された。

- (6) 入会者・退会者の承認
（「会員動向」の欄参照）

- (7) 2001年度の学会大会について
東海地区の渡辺、交野両会員を中心に、静岡県で開催することで了承された。

3. 【学術会議について】

池上会員（河村会員の代理）より次のような報告があった。

日本学術会議農業経済学研究連絡委員会（第17期・第5回）報告

2000年3月31日に、標記の会合が東京大学農学部で開催された。研連委員会事務局より、村研に対してオブザーバー参加の要請があり、安孫子会長の依頼を受けて池上甲一会

員（近畿大学）が出席した。

第18期の農経研究連絡委員9名（会長を除く）の選出ルールについて協議され、輪番制の2名分については98年度の県連委員会の決定どおり九州農業経済学会と日本村落研究学会にそれぞれ1名ずつ配分することとなった。2000年6月ごろに委員を選出する予定。任期は2年間である。なお、今期から3学会が新しく農経研連委員会に登録されたので、今後は7学会で2名を順番に回すことになる。

研連幹事（事務局）については日本農経学会の学術会議担当常務理事が担当する。

2000年度第1回研連共催シンポジウムは地域農林経済学会大会（10.28～10.29、京都大学）において開催する。

各学会の動向について紹介があった。村研としては今年度の大会（愛媛）予定のほか、IRSA日本招致決定の折には関連学会に協力をお願いしたい旨の発言をした。

4.【追悼文】

嶋田 隆先生を偲んで

岩本 由輝

創立期からの会員嶋田隆さんが、1999年12月10日、幽明界を異にされた。1970年頃までの著作に「島田隆」とあるのは筆名である。1919年11月16日生まれ、満80歳であった。

嶋田さんは、亡くなるまでの病気を含めて私事をほとんど話されなかったもので、大阪の市岡中学校卒で、神宮皇學館本科（国漢）を経て、東北帝国大学法文学部経済科に入学されたことを知っているぐらいである。ただ、伏見の年中行事について、子供の頃の記憶といいながら、いかにも嶋田さんらしく克明に説明して下さったことが今はなつかしい。

嶋田さんは中村吉治先生の最初の門下であるが、学生当時、中村先生はまだ演習を担当されていなかったもので直門ではないといっておられた。1943年9月、東北帝大を卒業されたが、10月から戦時下の研究者養成のために設けられた特別研究生の適用第1号となる。特研究生の実体は戦時下に勤労働員された学生の軍需工場への引率をすることにあつたが、動員先の中島飛行機伊勢崎工場近くの伊勢崎織の小工場で、銘仙の経営史料に触れて経済史に開眼し、中村先生の指導を仰ぐようになったと述懐しておられた。それだけに中村先生への私淑には人一倍強いものがあつた。

1948年9月に東北大学法文学部助手になり、以後、東北大学教育学部教員養成課程助教授・教授を経て、1967年4月から宮城教育大学教授に任ぜられ、1971年4月に東北大学経

济学部教授に転じ、学部長・大学院経済学研究科長を務めてのち、1983年3月に停年退官、東北大学名誉教授の称号を授与されたが、4月から國學院大学経済学部教授に就任し、1990年3月に2度目の停年を迎えている。

嶋田さんの最初の論文は「幕末、仙台藩における農村分解の一例」（1949）であるが、「諏訪藩農業経営の一例」（1952）はその後の研究方向を示すものとして注目される。この頃、中村先生の著作とともに、有賀喜左衛門先生の著作をよく読んだといっておられた。

1951年から中村先生を中心とする共同研究が始まり、成果は『村落構造の史的分析—岩手県煙山村—』（1956）、『解体期封建農村の研究—諏訪藩今井村—』（1962）として上梓されるが、この2つの村の共同研究において、嶋田さんは緻密な史料解説にもとづき、近世農村の農業労働組織を解明するとともに、その共同体としての分化・拡散過程を実証している。嶋田さんのもっとも充実した仕事は、この2著と中村先生の還暦記念論集『共同体の史的考察』（1965）にみることができる。

私は1959年に今井村調査に参加させて頂いて以来、御指導を賜っているが、嶋田さんはつねに謙虚で、自己主張されず、共同研究の和を保つことに気を配られていた。しかし、著述においては嶋田さんとしての筋を通す強靱さがあり、「関西生まれの東北人」の尊称を奉ったこともある。中村先生は嶋田さんの人柄に全幅の信頼を寄せていたが、嶋田さんの命日は奇しくも中村先生の祥月命日であった。

5. 【各種委員会からのお願い】

(1) 第48回(2000年度)大会の「大会自由報告」の募集

(熊谷 苑子)

○報告申し込み(締め切りは6月30日)

自由報告を希望される会員は、葉書に下記の事項を記入し、研究委員長(熊谷)の自宅までお申し込みください。

・報告題目 ・氏名 ・所属 ・住所 ・連絡先電話番号 ・電子メールアドレス
熊谷苑子

○報告要旨送付(締め切りは8月25日)

研究通信に掲載するため、報告要旨をお送りください。報告要旨は、学会事務局(米沢)あてに電子メール(原則として)にてお送りください。締め切り厳守でお願いします。

(2) 「年報編集委員会」よりのお願い

(藤井 勝)

「研究動向」欄の充実のために、会員の皆さんが執筆者へ文献（抜刷やコピーで構いません）をご送付くださるよう重ねてお願い申し上げます。執筆の締切りも近づいていますので、できるだけ早めに下記の執筆者宛にお送りください。なお「経済学・農業経済学」の分野に関しては、執筆者が桂明宏先生へ変更となりましたのでご留意ください。

史学・経済史学 : 高橋基泰
経済学・農業経済学 : 桂明宏
大阪府立大学農学部
社会学・農村社会学 : 佐藤直由
法学・法社会学 : 棚澤能生
西ヨーロッパの農村社会 : 熊井治男

(3) 「村研ジャーナル」第14号の原稿募集

(大内 雅利)

14号は2001年3月の刊行となりますが、投稿原稿の締切は2000年9月末です。今から夏休みの予定に入れておいて下さい。特に大会報告者や地区研究会発表者には、村研ジャーナルに投稿することを、強く期待しています。

(4) 学会賞候補作品推薦のお願い

(吉沢 四郎)

すでに「研究通信197号」でお知らせしましたように、本年度から論文の部と著書の部に分けて学会賞を選考することになりました。本年度の選考対象は1999年4月～2000年3月に公刊された業績です。選考対象にふさわしい「著書・論文・調査報告書」の推薦をお願いいたします。

運用規則によりますと、選考対象になる会員は「本学会に2年以上継続して在籍する40歳程度までの会員で、実証性・獨創性に満ちた研究業績を公刊し、今後の発展が期待される会員」となっております。

なお運用細則では推薦期日が5月末日になっていますが、6月10日（土）まで延期します。推薦は下記の推薦様式に従って推薦をお願いいたします。書類の提出は、学会事務局あるいは吉沢四郎委員長までお願い申し上げます。

日本村落研究学会研究奨励賞推薦の様式 (サイズは自由)

推薦者氏名	印	所属
研究奨励賞候補者氏名		所属
研究奨励賞候補者年齢		生年月日
学会在籍期間 (入会年月日)		
選考対象業績		

6. 【IRSA 関係のお知らせ】

(1) IRSA : 世界 (国際) 農村社会学会議第 10 回大会について

(北原 淳)

前号に掲載すべきところを情報不足で掲載できずにご迷惑をおかけしました。理事会でも報告されましたが、日本からは 11 名の報告者が登録しています。以下が概要ですが、最新の詳しい情報は大会ホームページをご覧ください。

1. 期 日 2000 年 7 月 30 日 - 8 月 5 日

2. 会 場 ブラジル・リオデジャネイロ・グロリアホテル

3. 発表登録 すでに申し込み・レジメ提出締め切りは過ぎました。

4. 参加登録 ホームページにある登録用紙を使い、メール、ファックス、郵便等で申し込む。ただし、メールを通じてのカードによる支払いは、悪用される危険があるので避けた方が無難。5 月 1 日以降の登録料は、本人 300 \$、同伴者 75 \$。

申込先

Tel

E-mail irsa@congrex.com.br

5. 大会ホームページ <http://www.ag.auburn.edu/irsa/>

(2) IRSA 組織委員会準備会の設置について

(池上 甲一)

北原淳国際交流委員会委員長 (名古屋大学) より、IRSA 日本招致のための申請書を IRSA 会長あてに提出したとの報告があった。これに関連して、池上甲一国際交流委員 (河村能夫開催機関代表の代理) から、IRSA 業務進行予定表 (案) が示され、昨年度総会の決定に基づいて IRSA 組織委員会準備会を設置する必要があるとの提案がなされ

た。組織委員会準備会の構成メンバーについては開催機関、事務局、IRSA理事、前期会長、今期会長、IRSA検討委員会委員長、開催機関に近い近畿地区会員などから13名程度を選出し、会長より就任を依頼することになった。最初の会合は、IRSAリオ大会後に開催する予定。

(3) IRSAの新評議員について

(鳥越 皓之)

IRSAの会長から連絡があり、北原淳会員(名古屋大学)と河村能夫会員(龍谷大学)の二人が2000年(2000年～2008年)からの新評議員に任命されたとの連絡がありました。これは鳥越皓之会員(筑波大学)の2000年での任期切れに伴う処置ですが、評議員数が増えたことは、この期間における日本の役割の重さを勘案してのことかと推察されます。

7.【地区研究会報告】

(1) 北海道地区研究会の報告

北海道地区研究会報告(2000年度)

日時:2000年4月15日(土)13時30分～

場所:北海学園大学

出席者:大野 晃、大沼盛男、小内純子、酒井恵真、松宮 朝、工藤貴子
工藤康彦、香田 潤、寺田悦子、野村潤也

報告1 松宮 朝「北海道農村地域形成の変容

—三市町村の集団活動の比較分析から—

松宮報告は、規範的理論としての内発的発展論が陥りがちな問題を乗り越え、近年の地域形成の変容を説明する分析枠組として再構成することを目的するものであった。報告では、まず農村社会学、都市社会学、地域社会学各分野の分析枠組の批判的検討が行われ、政策主導の地域形成要因と農業者主導の集団活動の地域形成要因の二つを二元論的に把握するのではなく、相補的に扱う必要性が強調された。そして、二元論的な把握を克服するために、集団レベルに焦点を当てた分析枠組が導かれ、その分析枠組にそって、道央大規模水田に位置する三市町村(新篠津村、北竜町、滝川市)の比較分析が試みられた。三市町村ではいずれも一律の国や道の政策が展開されているにもかかわらず、地域形成の展開過程に「違い」があることがま

ず指摘された。続いて、その「違い」をもたらした要因が、集団レベルの分析から導き出された。結論としては、「違い」を生み出している重要なファクターとして、政策推進に先行する集団活動のあり方と集団活動を結びつける水平的ネットワークの存在という二つの点が強調された。

以上の報告後の討論では、時間の関係で三市町村の分析に十分な時間が割けなかったところもあり、その点の補足を求めるものが多く出された。北海道農村社会の特質の捉え方や三市町村の基礎構造の把握の仕方、および女性グループの活動に対する評価の視点などに議論が集中した。

報告2 大沼盛男「農業改革とロシア極東農業」

大沼報告は、氏らが1989年から約10年間にわたり行ってきたロシア極東農業調査の報告である。調査はアムール州、ハバロフスク、沿海地方、サハリン州の4地区を対象に行われ、なかでもハバロフスクのラゾ地区の1農場については重点的な調査が行われている。

報告は、農業改革以前の極東農業について簡単にふれた後、改革後の実態分析が詳細なデータに基づいて行われた。社会主義国家ソ連の崩壊に伴い実施された1990年の農業改革では、コルホーズとソフホーズを解体し、その上に農民経営（フェルメル）を創出することが目指された。しかし、実際には、1993年7月1日段階でも、改革以前の体制をそのまま維持している農場が約4分の1を占め、集団農場として新たに再編されたものも含め、その経営内容は厳しく状況におかれている。なかには解体・消滅してしまう農場も現れてきている。実際、改革後は、耕作面積、畜産の飼養頭数、農用機械の装備などは軒並み減少・後退しており、極東農業全体が衰退化の方向をたどってきている。従って、新たに創出された農民経営も順調なものは少なく、減少傾向にあり、またその担い手も農業経験がない都市住民出身者がかなりの比率を占めている点などが指摘された。

続いて行われた討論では、改革に伴う土地所有権の移転のあり方などが論点となった。特に、大野会員からルーマニアの現状が紹介され、それとの比較によりロシアの特徴が浮き彫りにされた。

(文責：小内純子)

(2) 関東地区研究会のお知らせ

報告者：高木 学（京都大・文学研究科博士課程）

速水聖子（東日本国際大学）

日 時：6月24日（土） 13：30～17：00

場所：筑波大学大学院（大塚校舎 第一会議室）

地下鉄丸の内線（茗荷谷駅下車徒歩4分）

地下鉄の駅を出て道路をわたり、すぐの大きな北への道路を進むと校舎が見える。

高木学（京都大・文学研究科博士課程）

タイトル：新住民の定住化と地域生活のイニシアティブ

内容：Iターン移住など農山村への新住民らにとって、地元住民との関係性は、安定した地域生活を送る上で非常に重要な要素である。本報告では、中国山地に農山村に訪れたIターン移住者たちの事例から、主に地元住民との社会関係を取り上げ分析し、都市的な個性の発露と共同性の遵守とが織りなす相互作用から、新しい定住化・地域社会のあり方について考える。

速水聖子（東日本国際大学）

タイトル「新しい混住化と地域福祉」

内容：近年、農村移住や新規就農への関心が高まっている。都市化の延長としての従来の混住化ではなく、個人の意志による農村への移住を新しい混住化ととらえ、その上での農村集落のありかたや集落コミュニティ形成における新住民の役割 について、特に地域福祉の観点から事例を交えて報告する。

大勢のご参加をお待ちしております。

松村 和則（筑波大学・体育科学系）

Tel/Fax: 0298-53-6378

Email : matumura@taiiku.tsukuba.ac.jp

8.【事務局からのお知らせ】

(1) 学会費納入のお願い

振替用紙を同封いたしますので、ご確認の上、2000年度までの学会費の納入をよろしくお願いたします。(納入済みの方には同封しておりません)

なお、学会費は今年度より、正会員 8,000 円 院生会員 5,000 円です。

(2) 「村研のホームページ」のご案内

ホームページ <http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~yonezawa/>

平成12年2月より学会ホームページを開設しました。ぜひご覧下さい。

(3) 「メール登録」のお願い

現在、約 150 名の会員の方が登録されています。「村研ホームページ」等の案内が届いていない方は、未登録か、もしくはメールが返送されてきた方です。メールの届いていない方は、下記のアドレスまで一度必ずメールをお送り下さい。事務局で登録します。

メールアドレス yonezawa@pu-kumamoto.ac.jp

9.【会員動向】

(1) 新入会員 (平成 11 年 10 月～平成 12 年 4 月入会)

- 1) スリチャイ・ワンケーオ (タイ)
- 2) 引地三千夫 (淑徳大学大学院)
- 3) 土居 洋平 (慶応大学大学院)
- 4) 垂水 亜紀 (愛媛大学大学院連合農学研究科)
- 5) 山之内卓也 (鹿児島大学大学院)
- 6) 成 賢貞 (ソン ヒョンジョン) (鹿児島大学大学院)
- 7) 佐藤 晴香 (筑波大学大学院農学研究科)
- 8) 佐々木太郎 (筑波大学大学院農学研究科)

(2) 退会会員

- | | |
|----------|----------|
| 1) 坂根 嘉弘 | 5) 木下 英司 |
| 2) 戸谷 修 | 6) 与那国 暹 |
| 3) 戸谷 委代 | 7) 板本 洋子 |
| 4) 中野 三郎 | 8) 米村 昭二 |

(3) ご逝去

- 1) 島田 隆 1999. 12. 10
- 2) 中村 正夫 1997. 11. 14

(4) 住所・勤務先変更

- 1) 青木 辰司 勤務先：東洋大学社会学部

- 2) 今里 悟之 勤務先：大阪大学文学研究科

TEL :
自宅 :
TEL :

- 3) 北原 淳 勤務先：
〒
TEL : FAX :
自宅：〒 TEL

- 4) 黒柳 晴夫 勤務先：椋山女学園大学文化情報学部
〒
TEL :
自宅 :
TEL&FAX :

- 5) 佐藤 直由 勤務先：東北文化学園大学医療福祉学部
〒
TEL：
自宅：
TEL：
- 6) 永野 由紀子 勤務先：山形大学人文学部
〒
自宅：
TEL：
- 7) 高橋 巖 勤務先：(社)農協共済総合研究所
- 8) 西山 未真 勤務先：千葉大学園芸学部園芸経済学科

自 宅：
TEL&FAX：
- 9) 沼田 誠 勤務先：駿河台大学経済学部
〒
自 宅：
- 10) 森 太 勤務先：関西学院大学大学院社会学研究科
自宅：
- 11) 矢野 晋吾 勤務先：滋賀県立琵琶湖博物館
〒
TEL： FAX：
自宅：〒
- 12) 劉 文静 勤務先：岩手県立大学総合政策学部
〒 }
TEL： (助手合同研究室)
自宅：〒

13) 和田 健 千葉大学 留学生センター
自宅：
TEL：

(5) 住所不明

下記会員の方々は、郵便物が返送して参りました。至急事務局までご連絡下さい。
大澤 幸一郎、小松 正史、Jussaume, Raymond、田中 知美、細川 甚孝、渡辺 啓己

10.【お詫びと訂正】

「研究通信」前号 (No. 197) 9 ページ

「ジャーナル編集委員会」重岡 徹 会員の氏名が欠落しておりました。追加・訂正し
お詫び申し上げます。(事務局)